新公立病院改革プラン

【果たすべき役割編】

令和２年度実績

令和３年１２月２３日

雲南市立病院

新公立病院改革プラン５年目実績について
【果たすべき役割編】

当院では、平成２８年１１月に新公立病院改革プランを策定し、その目標を達成するため、計画期間の５年間にわたり様々な取り組みを実施してきた。このプランの進捗状況の管理については、果たすべき役割と経営効率化に分けて分析・検証し、評価委員会において状況報告を行ってきた。

ここでは果たすべき役割編の令和２年度実績総括とこれまでの５年間の最終総括を以下のとおり記述する。

【令和2年度実績総括】 ※具体実績については2ページ目以降に記述

令和元年１月に中国武漢市での局地的な流行であった新型コロナウイルスが瞬く間に全世界に広がり、現在もなお、新たなウイルスの変異株などの脅威に晒されている。また、県内でも新型コロナウイルス感染症患者が増加してくる状況の中、島根県第二種感染症指定病院である当院では、県の要請により新型コロナのＰＣＲ検査の実施やコロナ陽性者の受け入れなど積極的にその責務を果たしてきた。このような状況の中、令和２年度はこの影響により各種事業も縮小や延期または中止となったものが多くあったが、感染対策を実施しながら可能な限り事業を継続してきた。

【5年間最終総括】

長年の懸案事項であった本館棟の建設について、多くの関係者のご尽力をいただき、平成２４年度から開始された病院建設事業は平成３０年３月に新本館棟の竣工、令和元年１０月に病院改築事業が完了しグランドオープンすることができた。これまで、旧病院の構造等の問題により困難であった諸課題について、病院建て替えというハード面の整備が完了したことにより、より安心・安全な医療が提供できる療養環境を整えることができた。

一方、ソフト面では、医師・看護師をはじめとする地域医療を担う医療職を育成するため、地域医療人育成センターを中心に取り組みを進めた。これにより平成２８年度２１名であった医師数は令和２年度には２９名（歯科医師１名を含む）と全国的にも医師不足の状況の中、８名の増員が図られた成果は大きい。また、雲南市出身地域枠推薦医学生や看護学生が当院で勤務し、雲南の地域医療に貢献している。また、医師や看護師等の育成事業にも積極的に取り組みを進め、総合診療研修や地域医療研修・実習など当院の特色を生かした研修を策定し、県内外の病院や看護学校等より多くの研修生、実習生を受け入れた。一方、在職職員に対しても専門資格取得のための支援を行い、令和２年度までに認定看護師５名、特定行為看護師２名が誕生した。これにより診療体制、看護体制などの充実が図られ、より一層の安心安全な医療提供が可能となった。

また、雲南圏域の中核病院としての役割を果たすため、保健、医療、介護及び福祉分野において雲南圏域内外の各関係機関と積極的に関わり、連携の強化を図ってきた。平成３１年４月には経営統合による雲南市立病院附属掛合診療所の設置、令和元年１１月より田井診療所への巡回診療を開始し、掛合、吉田地区の地域の医療を担い当該地区の診療に対応し地域が求める医療を提供してきた。

しかし、本プランで掲げていた実施計画の内、計画期間中に達成できなかった事業（本報告書「実施計画集計表 P8～12 参照）も幾つかある。この事業については、プランを達成するため、各関係機関等のご理解、ご協力をいただきながら引き続き全職員一丸となって取り組んで行く。

最後に、令和２年度で現プランは最終年度となる。令和３年度からは国から示される新たな新公立病院改革ガイドラインに基づき、新プランを策定し実施していかなければならないが、新型コロナウイルス感染症の影響により、現時点でそのガイドラインは示されていない。このような状況ではあるが、令和３年度以降は当院が策定した「中期運営方針」を基本に、地域の中核病院としての果たすべき役割を今一度確認し、地域住民から親しまれ、信頼され、愛され、また地域医療日本一を目指していきたい。

基本方針

1．住民の安心安全のための医療充実

⑴ 地域医療の拠点病院として、急性期・回復期医療を中心とした医療を提供します

・急性期医療を担う上で、関節鏡システムなどの高度医療機器について機器更新を実施した。

・新型コロナウイルス感染症対策として、全自動遺伝子解析装置、陰圧ストレッチャーなどの整備を行った。

⑵ 災害拠点病院として、災害時の医療提供体制の整備を図ります

・災害派遣医療チーム（DMAT）について２班体制を維持し、医療救護体制の充実を図った。また、令和２年度に DMAT 医師を１名増員した。

・事業継続計画（BCP）に基づく災害想定訓練については、新型コロナウイルス感染症の影響により実働訓練は出来ず、ビデオ研修として３月に実施した。

・令和 2 年度に救護用エアーテントを導入し、災害時における医療救護体制の整備を図った。

⑶ 救急医療体制を維持し、住民が安心して生活できる二次救急医療を提供します

・救急連絡会は定期的に行うことができなかったが、新型コロナ感染症対策について、行政や医療機関と連携をとり、救急患者受け入れに迅速に対応できた。救急患者の受入を積極的に行い、救急医療の充実に努めた。

（H27 年度：591 件、H28 年度：741 件、H29 年度：830 件、H30 年度：827 件、R1 年度：904 件、R2 年度：825 件）

・雲南市休日診療は、新型コロナウイルス感染症への対応に困難があり受診者数は減少した。

（H30 年度：225 人、R1 年度 234 人、R2 年度：66 人）

⑷ 安心して子育てできる環境を確保するため、小児・周産期医療の連携を密にした診療体制を整備します

・令和２年４月より産婦人科医師２名体制となった。また、病棟内の産科ユニットを効果的に活用できる体制を整えた。分娩件数が増加しているため、より多くの分娩やハイリスク妊婦に対応できるように体制強化が必要である。

（出産数　H28 年度：46 件、H29 年度：39 件、H30 年度：69 件、R1 年度：66 件、R2 年度：81 件）

・小児科医師２名体制を維持し、小児救急対応や入院できる医療機関としての体制の充実を図っている。

⑸ 地域包括ケアシステムを構築する一環として、在宅医療や認知症対策を推進します

・在宅医療を推進するため、地域ケア科を中心に平成２８年８月より訪問診療を開始した。令和２年度は、実患者数３４名に対し延べ訪問診療２０９件、往診４０件、在宅看取りを１６名に実施した。

（H29 年度：実患者数 22 名に対し、延訪問診療 105 件、往診 44 件、在宅看取り 19 名）

（H30 年度：実患者数 28 名に対し、延訪問診療 205 件、往診 30 件、在宅看取り 14 名）

（Ｒ１年度：実患者数 28 名に対し、延訪問診療 170 件、往診 24 件、在宅看取り 10 名）

・平成２９年度、院内に多職種協働の認知症サポートチーム(DST)を設置し、ユマニチュード研修へ計画的に職員を派遣し、より専門的な知識の習得を図ってきた。１１月には岡山大学医学部へ講師を依頼し研修会を行った。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止ため、Zoom を利用して職員や県内の認知症認定看護師とスキルアップを図った。

・認知症に対する専門的知識を有する認知症認定看護師が１名在籍している。認知症サポート医や認定看護師を中心に院内の認知症患者やせん妄患者のラウンドを行い、適切なアドバイス等を行った。

⑹ 情報発信に努め、定期的に地域との連絡の場を確保するなど、地域に開かれた病院を確立します

・新たに着任した医師の歓迎会をがんばれ雲南病院市民の会及び雲南市立病院ボランティアの会の主催で毎年度開催されているが、令和２年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により開催されなかった。
（H29 年度：5 名／2 回、H30 年度：3 名／1 回、R1 年度：6 名／1 回、R2 年度： 8 名／開催なし）

・令和３年３月、がんばれ雲南病院市民の会及び雲南市立病院ボランティアの会がこれまでに実践されてきた医療機関へのかかり方の改善につながる啓発活動や取り組みが評価され、「上手な医療のかかり方アワード 厚生労働省医政局長賞(民間団体部門優秀賞)」を受賞された。

・令和２年度の医療出前講座は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により開催の短期間休止や、十分な感染予防対策を講じて行うなどの制限があったことなどにより、例年と比較し、開催回数全３３回、参加総数８１０名と大幅な減少となった。また、依頼があったものの中止とした件数は１１件あった。講座内容では新型コロナウイルス感染症に関連した感染予防に関する講座の開催が一番多く、出前講座を通じ地域における予防等の普及啓発活動を推進した。
（H27 年度：全 60 回、延べ 1,536 名、H28 年度：全 81 回、延べ 2,051 名、
H29 年度：全 80 回、延べ 2,368 名、H30 年度：全 100 回、延べ 2,836 名、
R1 年度：全 107 回、延べ 3,010 名）

・新型コロナウイルス感染症の影響により、雲南地域医療を考える会主催の地域医療を考えるシンポジウムの開催は中止となった。また、地域を守り育てる住民活動シンポジウムはオンラインでの開催となったが、住民の方々と一緒に参加し、意見交換や情報共有を行った。

・毎月発行する病院だよりでは、病院イベント報告のみならず、医師、看護師など医療職からの情報発信を中心とした記事を積極的に掲載した。

・病院ホームページやフェイスブックを活用し、病院が行ったイベントなどの情報をリアルタイムに掲載した。

・地域に開かれた病院づくりのため、平成２３年度より実施している病院祭について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により令和元年度に引き続き、開催を中止した。

基本方針

２. 高度先進医療及び地域医療機関との連携強化

⑴ 高度の医療を中心とする5疾病などの医療は、急性期と回復期医療の中心的役割を担いつつ三次医療機関との連携を図ります

・三次医療機関からの逆紹介について１００％を維持しており、引き続き三次医療機関との情報共有と連携強化を図っている。また、回復期リハビリテーション病棟において、土日祝日にリハビリテーションを実施し、集中的なリハビリテーションを３６５日行い、早期の在宅復帰を果たすことができる体制を継続している。

⑵ 一次医療機関（診療所）との連携を強化します

・平成２７年７月から在宅療養後方支援病院として、患者・家族の安心の担保、開業医医師の負担軽減を図ってきており、現在登録患者数は２３３名（令和３年３月末現在）となっている。

・令和元年１１月より、吉田町田井地区において毎週火曜日に巡回診療を開始し、田井地区や温泉地区の地域の医療を担っている。令和２年度は診療を４７回行い、延べ５７５名の患者の診療に対応した。

・在宅医療の推進にあたり、連携強化や様々な課題を話し合うための場作りが重要であるため、

平成２９年より開業医医師と合同で症例検討を行う「うんなん病診連携勉強会」を開催している。令和２年度は４回計画したものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響のため、２回の開催(２回は中止)となった。参加者数は当院職員を含め１回目１８名、２回目３０名の参加があり病診連携の強化と顔の見える連携体制構築を図った。

⑶ 圏域内の二次医療機関との連携を図ります

・引き続き町立奥出雲病院に耳鼻科医師を、飯南町立飯南病院に整形外科医師を週１回派遣し、連携強化に努めている。

・令和３年３月に町立奥出雲病院が分娩の取扱いを休止したことに伴い、同町の妊産婦の分娩の受け皿として当院が担うこととなった。また、令和３年４月以降、同病院が行う妊婦健診などについて、当院からも定期的に産婦人科医を派遣することになった。

・医師をはじめとする医療職の人材育成や人材確保、また医療安全及び感染防止対策に対する取り組みなど、町立奥出雲病院と今後の更なる連携強化を図るため、「地域医療連携推進法人」の設立に向け、雲南保健所の参画のもと各種手続きなど準備を進めた。

令和３年２月１７日　一般社団法人雲南市・奥出雲町地域医療ネットワーク 設立
３月２４日　地域医療連携推進法人認定申請書を島根県知事へ提出
６月１１日　島根県医療審議会医療審議会での審議
６月１６日　島根県知事より認定
６月２９日　地域医療連携推進法人 雲南市・奥出雲町地域医療ネットワーク
設立総会及び設立記念事業を開催

基本方針

３．地域保健の充実と介護・福祉との連携強化

⑴ 圏域内の保健・福祉と一体とした地域医療サービスを提供します

・令和２年度の出前講座では、介護施設へ医師や認定看護師等を８回派遣した。また、在宅看取りや健康長寿に関する講座へ医師を派遣することで、より専門的知識や情報を提供し地域の医療と介護の連携に努めた。

⑵ 地域保健と連携し、生活習慣病の重症化の予防を図ります

・令和２年度は、特定健診要精査者のフォローアップや生活習慣病予防のため、健診事後フォローアップ教室（２回）の保健事業を実施した。糖尿病教室は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により一度も開催できなかった。

・雲南市の保健師と連携し、市民健康講座を２回開催した。

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響のため、院内外での研修会及び連絡会に積極的に参加はできなかったが、糖尿病対策委員会及び糖尿病サポートチームを中心にフットケアや糖尿病週間事業等で糖尿病患者の支援、啓発活動を推進した。

⑶ リハビリテーションを中心とした環境を整備し、高齢者が安心できる医療を提供します

・雲南市地域ケア会議、雲南市地域リハビリテーション活動支援事業（雲南幸雲体操指導）に療法士が参画し、介護・福祉と連携した取り組みを行っている。

・訪問看護ステーション配属の療法士のほかに、必要に応じて利用者のニーズがある。言語聴覚士が訪問リハビリを行い、リハビリテーション提供体制を強化している。

基本方針

４. 地域医療を安定的に提供するための健全経営

⑴ 安定した医療を提供できる人材確保や育成に努め、また職員意識の高揚を図ります

① 医師確保について

（ア）令和３年４月１日現在の医師配置数

・医師数：３１人　※会計年度職員３名を含む

・非常勤医師：常勤換算数　４．４人（実人数７０人）

（イ）医師配置状況　　令和３年４月１日現在

	内	外	小	整	耳	眼	産	皮	リ	精	泌	脳	麻	放	歯	計
計画	6	5	2	4	1	1	1	1	1	0	2	0	1	0		25
現状	11	5	2	5	1	0	2	1	2	0	1	0	0	0	1	31

※会計年度職員３名を含む

（ウ）医師年齢構成　　令和３年４月１日現在

年代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	合計
人数	6	１０	6	3	4	2	３１

※会計年度職員３名を含む

（エ）地域枠推薦医学生の年度別人数　　令和３年４月１日現在

島根大学医学部（９人）						医　師（１６人）			
１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生	初期研修医	専攻医	６年目以降	
０人	１人	２人	１人	３人	２人	１年目 １人	医師３年目 ４人	医師６年目 ２人	医師９年目 ０人
						２年目 ０人	医師４年目 ５人	医師７年目 ２人	医師 10 年目 １人
							医師５年目 ０人	医師８年目 １人	

医学生：９名　　医師：１６名　　合計：２５名

・平成３１年４月より、総合診療専門研修プログラムによる専門研修を開始している。当院を中心とした３年間のプログラムの充実を図り、雲南で総合診療を志す若手医師の研修環境整備を行い、雲南の地域医療に貢献できるようサポートを継続している。なお、令和３年度開始の本プログラムには３人の応募があり、現在、当プログラムには６名が在籍している。

・しまね地域医療支援センターの助成金を活用し、各分野の著名な医師を当院へ招聘し、総合診療のスキル獲得及び教育システムを構築する総合診療医育成研修・講演会を２回開催した。

・雲南市出身地域枠推薦医師２人（整形外科・外科）が当院で勤務し、雲南の地域医療に貢献した。また、令和２年４月現在では１人（整形外科）が引き続き当院で勤務している。

・令和２年１０月に雲南市出身地域枠推薦医学生及び医師との意見交換会を開催し、総勢２２人が参加し「チームうんなん」の絆を醸成した。

・雲南市出身地域枠推薦医師１人（整形外科）が当院で勤務し雲南の地域医療に貢献した。また、令和３年４月現在は１人（地域ケア科）が当院で勤務している。

② 看護師の確保について

・雲南市出身地域枠推薦者について

地域枠推薦者は２２名（看護師１８名、学生５名）で、これまでに１７名が当院で勤務し、雲南の地域医療に貢献している。（令和３年４月１日現在）

・看護師奨学金制度利用状況（令和２年度：１名）

・特定行為看護師研修（１２区分１５行為）を行っていた当院看護師１名が令和３年３月に研修を終了したことにより、特定行為看護師が２名在籍することとなった。

・令和２年１２月に皮膚・排泄ケア認定看護師が誕生し、これにより認定看護師５人が在籍することとなった。

（感染管理／緩和ケア／摂食・嚥下障害看護／認知症看護／皮膚・排泄ケア：各１人）

③ 地域医療人育成センターの取り組みについて

地域医療を担う医療人の育成については、平成２１年４月に設置した、「地域医療人育成センター」を中心に取り組みを進めている。今後も引き続き重点施策に位置づけ、以下の事業を中心に育成事業の更なる強化を図っていく。

■令和２年度地域医療人育成センター事業実績

（ア）医師育成事業

１）専攻医の専門研修（２人）

松江生協病院より総合診療専攻医１人を総合診療専門研修の小児科研修で３か月間（４～６月）受け入れた。また、島根県立中央病院より救急科専攻医１人の専門研修を３か月間（６～８月）受け入れた。

２）初期研修医による地域医療研修（１５人　延１７．５か月）

島根大学医学部附属病院（３人）、島根県立中央病院（２人）、松江赤十字病院（２人）、浜田医療センター（４人）、松江市立病院（１人）、松江生協病院（１人）、姫路赤十字病院（２人）

３）島根大学医学生地域医療実習（１４人　延３２週）

６年生：４人（延１２週）　５年生：１０人（延２０週）

４）夏季・春季地域医療実習（３人）

夏季：新型コロナウイルス感染症感染拡大により中止、春季：３人（３月）

５）島根大学医学部フレキシブル実習（１２人　延１１７日）

６年生：３人（延９０日）　４年生：５人（延１３日）　３年生２人（延４日）

１年生：２人（延１０日）

（イ）看護師等育成事業

１）特定行為看護師実地研修（１人）

自治医科大学（看護師特定行為研修センター）より１人を令和２年１１月から５か月間受入れ、１１区分１３行為の特定行為研修を実施した。

２）在宅看護実習（６人）　島根大学医学部、松江総合医療専門学校

３）薬学部実務実習（２人）　福山大学、安田女子大学

４）リハビリ科（理学療法士・言語聴覚士）実習（４人）

松江総合医療専門学校、出雲医療看護専門学校

５）管理栄養士臨地実習（３人）　島根県立大学

６）喀痰吸引研修（８人）

雲南圏域内介護福祉施設の介護士へ、島根県介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修（不特定多数の者対象）の実地研修（第二号研修）を実施した。

（ウ）医療職体験事業

毎年、夏休みと春休みの期間を利用して、医療職を目指す中学生と高校生を対象に実際の患者さんと職員と一緒に医療体験を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、院内での医療体験事業はすべて中止となった。（共催の島根県も中止）

（エ）その他

１）看護体験出前訪問授業　大東高校　１８人（９／１４）
　　三刀屋高校　３９人（９／１８、１１／２０）
２）三刀屋高校未来創造探求ＦＷ　１５人（９／１０、１１／１２）
３）大東高校地域課題研究　３人（１／２１）
４）ふるさと教育（吉田中、掛合小）　４２人（１１／１９、２／２）

⑵ 経営の効率化を図り、経営基盤の強化を図ります。（経営効率化編）

⑶ 一般会計の負担（操出基準）の適正化を図ります。（経営効率化編）

その他

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、雲南市委託事業の「産後母子ケア」事業、周産期支援としての「母親教室」、「赤ちゃんの体操教室」及び「マタニティビクス教室」については開催中止となった。
・附属掛合診療所では主に掛合、吉田地域の医療を担い、更に当該地域における在宅医療として訪問診療を継続して行っている。
・令和元年９月に開設した歯科・口腔外科では、地域の医療機関及び院内の他科から紹介された口腔外科疾患、また、入院患者の手術前後の時期における口腔ケアなどを中心に毎週火曜日に診療を行っている。
・平成２９年４月より雲南市健康福祉部健康づくり政策課に市役所との連携強化や地域包括ケアシステム構築の推進に向け、当院職員が引き続き併任で業務を行った。
・雲南市の健康づくり拠点である加茂 B&G 海洋センター（ラソンテ）にて、水中運動指導士の資格を有している当院理学療法士２名が、市民を対象に水中運動教室を月２回開設し、ロコモ対策の水中ウォーキングを提供している。
・市内１２ヶ所の事業所と当院医師５名が産業医として定期的に職場巡視などを実施した。
・令和２年４月より、新型コロナウイルス感染症対策に対応するため、院内に新型コロナウイルス感染症対策室を設置した。